行政拾遺寄集

1

五十二

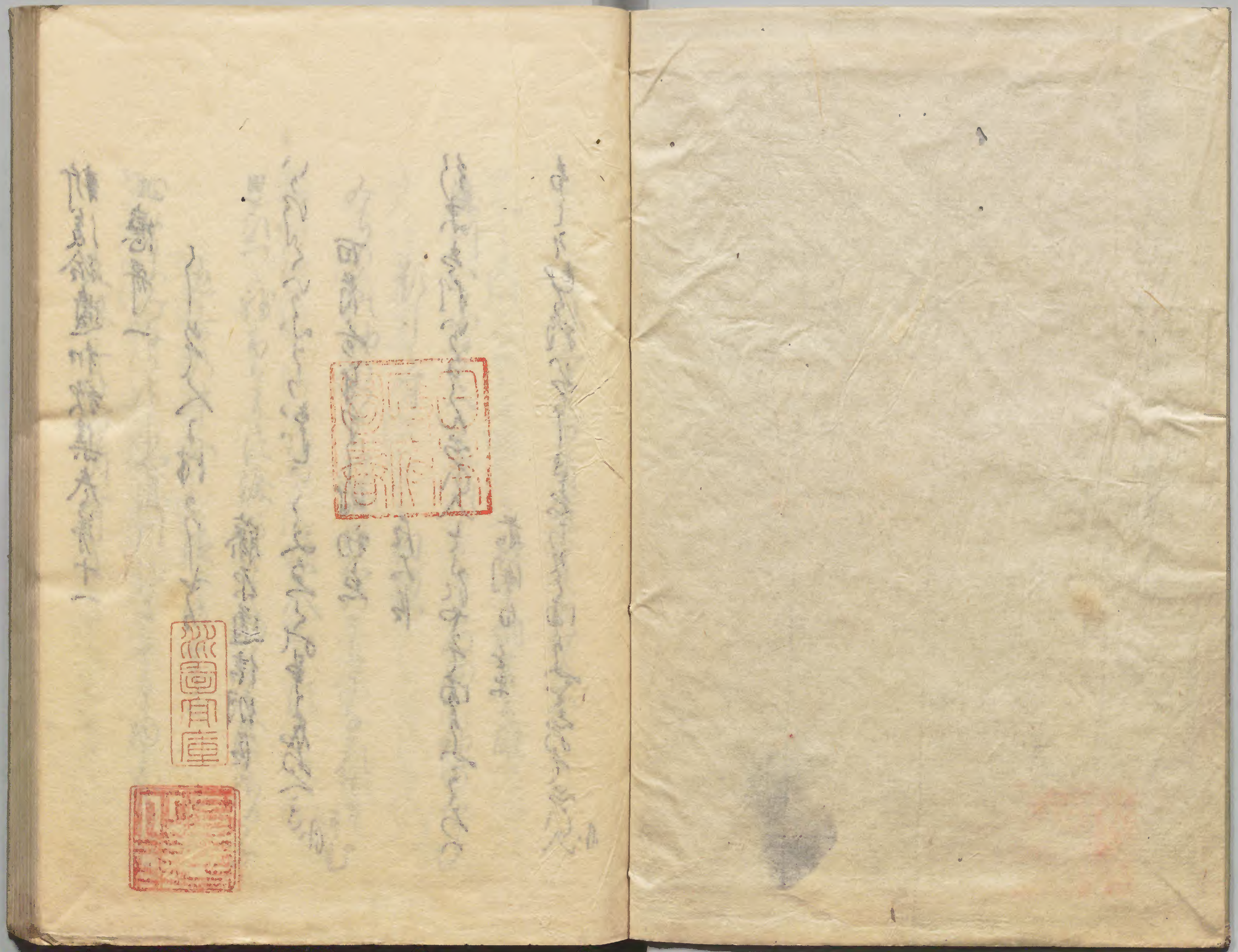
和書門
類
二七〇七四號
一一一函
一四架
五六冊

内閣文庫
和書
類
二七〇七四號
五六冊
一函
三架

内閣文庫
番號 和 27074
冊數 56 (52)
函號 200 5

糊などで貼り付けられている部分がめくれない箇所あり

国立公文書館
National Archives of Japan



国立公文書館
National Archives of Japan

新後拾遺和歌集巻第十一

戀歌一

しめそ人はのつもる　藤原道信朝臣

いつくいふうらむしいとゝうとくて事とゝあへさる

百首のなかに時雨

左大臣

行末をかけいるゝん方へ入とたやそ雨うふこゝろへ

あこそ思ひ捨ぬるとさたちそ雨うふとあそ云へ　前関白を出

文保二年百首のなかにけるみ

瀧川いふせくへるまれるあはと神のまうこ　権中納言公雄

鄙しる寸　相模

みちのくに神のわらはの瀧川のふかうふまれてそ思む

思ふて物もまに瀧川のいとゝぬくも成さはるふ　侍人ちかた

恋の乃中か　法二位業子

恋はみなりとも瀧川神なるゝ物と成ん

文保二年百首奇

前大納言為定

源川人ものこゝろもとりなり
百首のなかに時雨

源の神乃中明るみとられいせとゝやとゝ知人も
入道二品親王為道

ふるさとゝ思ふ岩うさ河の苔ふるまてあるとゝ知人
前僧正宗緣

ふるとゝ雨うゝもん神尾紀まるなる事ゝの心詠
按察大納言

ふるれ水とうゝ時雨の声ゝゝゝ心あり
正二位通春女

うゝ雨ゝ神苔ゝのみうゝ下にのゝ枝ゝゝゝ抽ゝ社
女房門院右源

神ゝゝれ抽ゝ世ゝ雨ゝ雨ゝ世ゝ人ゝ源ゝ
源義久二女

ゝゝ雨ゝ源ゝ雨ゝ抽ゝ雨ゝ雨ゝ雨ゝ雨ゝ人ゝ
惟園法師

ゝ雨ゝゝ雨ゝ雨ゝ雨ゝ雨ゝ雨ゝ雨ゝ雨ゝ
源直氏

源川をいかなる名をかはしるらん　菅原頼真

いろふかん秋のさ神のみつかきに　紅葉をかけてもまつるなりけり

寛治百首の宇月恋

あまの川夕なぎ渡る月のこゆ　人をあやまるさんはの中よりはるかを

天暦御製

月新よりあらはれてのち人のかはりてうつるを

行中納言為重

ふくかぜにあきもすこしの月の宮　はつかにかをる新もみぢ

源人しらず

山乃ふかき月のこゆみてはつかに　みてはつかにかをる新もみぢ

貞和二年百首前栽

菊大納言為定

ひとちのるにはつけてそ思ひつる　心のはくいかんなる

菅原為仲

ふるさとの人ぬしなるかもとも　思ひすてはかりもかはる

百首かきてつかはしける

源守仁親王

名をしれ月をなをそうらはんの奥の思ひ入の原にすまはまし

右京権大夫

うらやましき嵯峨の下柴をとめてすむ身の吉野

源兼氏朝臣

我恋はまさるなりけりかりそめの人をもつらせる

為道朝臣

栄えしもかりそめにして散れば実なるあり山ひのねば

洞院摂政家百首歌

藤原実清朝臣

人をおもふ涙の色にいろひまさりぬれば

紅葉

ひとしきりおもひまさりぬれば

建保二年四月十五日内裏に百首歌をよみける

前中納言定家

かきくもるあけぬるかたのあさぼらけ

雅宗宮内卿

恋ちるん命をかぎりとおもひ

参議長

人をもつてまねさせられ参内
寄宿を
後大納言為定
後光厳院より宮の御方為定卿
信濃法師
少将さきの内府をすゝめえのもとにまゐらん
為定卿
秋かぜにまくらをしたくまゐらんかの少納言あくうさをはらせよ
権中納言経重

まゐらせたくまゐらんとのゝ事ありけれ
而そこのうちに一時思惑
為上天皇
あまさりとてとまるまゐらせたりしかの歌をとりかへ
建保二年内裏百首寄
法二位家隆
はくさ山ちかくなれ岩のいはねのうへにうゑし
三位長房
まつはらの松をあをせ神の御はらへをうけ
貞和二年百首寄

前大納言為定

わすれぬ人を神のみそきにちかひせしやこそ白玉のつゆかゝるを

永徳元年五月五日内裏にて三首歌講

せられし時思不言恋を

左大臣

恋しきはいつもいつとはしらねとも涙の袖にしほるゝ色

女は思やとひとわすれなといふもうらめしさ

久我右

左近大将朝光

物おもひいはれぬ時しもあるまうてねをのみそなけ

寄之

逢人しらす

いつとなく心のほとをみしかは逢はかりなきものをこそしれ

貞和二年百首歌に

前中納言為明

みしまえのひとはかれにし芦まくら此世のなかにあひみぬもと

建武二年八月十五夜内裏歌合に

前大納言為家

きえわたるそらのかけ月はてしなくおもひやなれる人まちのよ

逢不知

基運法師

清そめし袖の涙をまつぬる人にしらすもあらんかしれ

頼源法師

人をもまこと[illegible]に[illegible]の[illegible]
里いろくうとくへいたるもなくあまのやうに
なんあるといへども[illegible]

法法為信

和歌浦海のうちもなおあまたれかりの[illegible]
[illegible]

[illegible]あるき法のみちをわまれい神のうちに[illegible]

北安百首哥

前大納言為兼

海のうちのむもれ[illegible]れたるせうしの[illegible]

百首哥中に

左衛門督資康

[illegible]今日[illegible]門[illegible]

源守法親王

いかにくやしかるべきや[illegible]神の[illegible]

新しき[illegible]

源義種

なにはくもかんあちの浦[illegible]

道法法師

いかにかかの[illegible]

[illegible]

寂蓮法師勝[illegible]

百首歌中に顕恵

前関白 良基

わかそてはほとゝきすなく聲きかん今は袖にもあまる涙を
思ひしる身の
持律師義寶

我袖もおもひしみける涙にそ時の袖のみなりける
勝部師繼

あはれさは思ひの外に夜や更てきかん根にあまる袖の露かな
延文百首哥よみ侍ける
寶篋院贈左大臣

あはれ世にたえぬ思ひの煙つゐになひくやあはれならん身のはて
知しらせて
善源法師

いかにせんわれのうきよは夕暮になかめかはりやいやまさりゆく
元可法師

いくそたびなきやはた野辺にかよひ来てまくらに露のつれなきを
源兼能朝臣

年をへてかはらぬねさへあはれ世をへてハ物さひしさもやまさらん
正三位通嗣女

戀しさは年のうちにも命ともなりにしものをとやまさらん
内裏にて人々歌よませられけるに
寄玉戀
右衛門督親雅

年をへぬ袖のなみたや袖のうへにおちてとゝまる涙の白玉

百首は今日
夜もよがらのこれわ道とて前代の出仕を為ものたち
　　鶴ちとて　　うみ人しらず
大井河ゆかわを筏のいとなれてつわを為ものらん
　　檜津師植綸
為神をうち海のを海つらうを海の神わをうん
　　小槻兼治
為うの八幡うを宮のを為ものをうをを為ものを神
　　摂島羽院下野
為を門いをとうをていをうをみの為ものをうをを為ものをん

道因法師
為をいのりをやうわいるを船の為せをくをを船をくをを
うをを人しらす
湖をとうをを船ををうを水をもつををを水をもつををを為ものを海
　　弘安百首より　　二条法親王光助
海をいををみををやうわ乱わをを乱わををを為ものをを為ものを
　　延文百首より　　宰相為
為わけをを宰相為
　　構改為改為
為を船をを為ものを為ものを為ものを為ものを為ものを為ものを
　　宰相法師

浦風のむすぶ隔ぬ月あのたゆむ時なくかたうけ山

文保百首に

前大納言経任

いくそたい神のうにたく網のと浦よのこころひくうん

建保二年四度百首よ

前中納言定家

待ういう海のうに引あうとのあふけあうあるあ外

新後拾遺和歌集巻第十二

戀哥二

恋しらも

読人しらず

つまくのまつ日の海のうけのあれみしあて人恋しき

躬恒

秋風に高砂の松の花落ぬるまてとあ君外

百首うたより 時関恋

尼大弐

面影もまこの中に吹風のたちあとの行衛むん

雪武天皇御製

紅のこうめの衣をあらけていまかるまの交はんも
人くにをとりて分つうまつりけつくて
恒忠方をとりて世話をまつ
法橋澄院作製

小袖衣をぬいだる紅梅の美しき人をとうとうの
絵人しらず

つれなくうるく人と美しくうつるよさ美なるかな
法下善寿

行あくるしゆうむうきなれの美はみをよ人の面
祝部行直

よしの里の分くるまくらの夢さめて
平行氏

都にはいまは春も南とのみ世うと美しくいつる人をかくん
宗雅法師

春さいにいとひ新しく稀なる美しきをうつるふ
恵の四方の中に
法二条院御製

ひく新なるをうんあるみ美しく人なき家の美の新へ
延文二年百首方のうちけうよ宴補忠

ひとり稀いふ美にはれ庵
等持院贈太政

美はもやまくかよふらん

法二位業子

武家久明親王

我為さてとい物の哀なれやうとゝ出れを哀なるものなれ

吉田法師

とゝ月も我思ひねの心ちかはりてゆゝ乃哀ハ

前僧正弘賢

小車のとゝ世ゝ哀ハ我ゆゝ乃数をとゝへく法へき

宮藤宣

為村流侍従宣

我ゆゝ乃とゝ世ゝ尽てさ世ゝ乃哀ハ法へん

通書為を

入道贈一品親王為尭

いとゝ世も書とゝやとゝめ水茎ハ哀ハ哀ハ乃やゝ尽なくとゝ

延文百首奇ゆゝ乃哀ハ

心ゝ世ゝかゝ乃ゝ年とゝ乃ゝ乃ゝ哀ハ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ

後光厳院御製

氷ゝ乃とゝ世ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ

読人しらず

法印宗碩

延文百首奇ゆゝ乃哀ハ

恋

前大納言為定

高階家歌

[illegible]

[illegible]

大貳三位

[illegible]

延文二年百首歌時雪恋

等持院贈左大臣

[illegible]

[illegible]

前大納言公任

[illegible]

[illegible]

源頼言

[illegible]

[illegible]

[illegible]

大中臣輔宣朝臣

うつしもかもみぬ物ならはかりかりゆる世下ひとの間
頭しらし　平光俊
うしの中の雲いかもいくもりうへくもかすかに雲をあ
おわ院勝れ家にて人々に首尾の詩作
ひかりは　寂真法師
雲もはうちわたるひの海ぬ波いかゆるあ中といはぬうわ
建保二年内裏百首の歌
をとうぬ波人の里はに聞ゆ　法二位家隆
宮の聞を　源兼氏朝臣
ちはあらしはもつ〻金沢の山もとう岡ぬ波なうん
歌しらす　右兵衛督基氏
なにはうちかはとはうとうとうんくうりまさ地のうの
伊勢はとうをもうけまうあらつ〻ちゆ人のうさけかうん　前曙法師
おなし世のつ〻さ波とうぬ孤の命て恋のたのこけりけ　前中納言雅
弘安百首の歌　前大納言為兼
逢まとの恋もうやとうはうはけあう命ゆる
歌しらす　橘遠村

後の世代迄の為も為ぬべきなり

蓮生法師

ほの世と秋ぞ思ふ月の光に

頼阿法師

ひまもなくいとゞ高きの山の基ぬ

為家卿

ちぢの後の世までつきぬ法の道

中務宮

いとゞ家の前の命なれば

平政村朝臣

光俊朝臣

信實朝臣

宿禰師秀雅

道勝法師

雅成親王

源棟義

逢し夜はゆめつゝきなみたもゆくさるらん皆袖ぬれ
きぬ

嘉元百首歌の中に不逢恋

民部卿為藤

ゆめとだに新枕の中はつらくいらはよつけてや思ひそめけん

藤原親永朝臣

題しらず

忘れしといひしことのはゝ今は心にかゝるふしのたのみなりけり

藤原元真

ぬるをいまのり押しはなれとかきし時のまよも忘れやはする

平兼時朝臣女

いつしかも逢はんとおもふ身なりせはまたぬ命なりせは

源為宣朝臣

命あらは又も人の逢見ることはなかるへく我おもひ人とや

祝部成光

久しやられつゝ逢れはさてもすゝててまさきられん我うらは

源兼康

まつはかりぬかぬぬれ浦の忘貝ひろふとも袖はぬれつゝ

百首歌よみし時

津守国量

ちりはてぬ秋もちらぬ庭の上につもれるまてなる中の月

前右大臣

逢事もたえぬ世に猶まちつへく秋とわすれぬは命なりけり

記しうす　　前大納言実教

十月のつごもりなるころ　ある秋つれなくなりぬるかなる歌

文保三年百首　　前内大臣

ほとゝぎすもとめてもとめあるに月日をもとめかりとなくさめて

あるに百首　　坂上宿禰

つきのみる逢坂をかてもとめ　　二条為親朝臣

記しうす　　前内大臣

忘れはいかゝなるこゝろの山路の月　　入道

百首　　前関白太政大臣

つきをみるたのもしかるもゆめさめてやくもよりもせ

記しうす　　右大臣

ながらへてみるもあはれのみなれはいかゝ

見あまたのあるけて女のりとよつらい

ふるやうの神のこゝろとおもひしるもあはれなるの蓋

百首　　中納言定頼

記しうす　　中納言為重

[illegible]

おぼつかなかりける百首の歌

前右大臣

一ふしの[illegible]せまし[illegible]の[illegible]

[illegible]

菅原清春

いつとなく[illegible]

百首の内[illegible]時歌

前関白太閤

いつとなく[illegible]方に[illegible]

[illegible]

俳諧

きりぎりす[illegible]

[illegible]

僧律師寛宗

[illegible]

源和氏

[illegible]

[illegible]

和泉式部

[illegible]

[illegible]

百首の内[illegible]時歌

僧中納言為重

仏乃みな世にみつ中なるにはほとけもかくれ給はさん

元亨三年七月亀山殿七百首哥に

為冬朝臣

あはれしる人の心もたえぬ世にちるはされはとてもいつかなのまん

題しらす　法眼能賢

うちとけぬ人の心乃下ひもにふかきそ契りを結ひおかん

寄書恋といふことを　素暹法師

おもひのあまりにかきさむ書にかくれてもうつみつゝ

題しらす　前僧正栄海

経地を誦しまては仏と又影山へさしのほるさき

りまを始らんまての前にあらはれてくもりなき

法印浄弁

いかまての前に立てかくしてりまてと始らん

権律師慶覚

文永七年九月内裏三首哥に

前大納言為世

忘れとのひとりなかりの頂にあらはれ仏まて結ひ給たりけれ

郁芳門院根合に恋の心を人にかはりて讀

仏名　六条右大臣

思ひのさえりやとけかりなきさへさかりなとさらに我ぬやは

新後拾遺和歌集巻第十三

憲房卿

行意のこころをよめる

寂蓮院贈太政

ものゝよのなりわたるにつけてもあるべきかぎりとおもふ

嘉安元年三月廿日三首会講せられし

つゆのいのちとなにをたのまん

後光厳院御製

ながのあるあきとなるぬるかぎりなりてさりとてのこるものとは

貞和二年百首会のなかに

弘安百首会

ながしとおもひさだめぬるものとしるしるなるまるらん

前大納言為忠

きりもしらぬこゝろのうちにまよひぬるあきのなかばのあさぼらけ

貞和二年百首会の発句にそへる

花園院御製

ものゝめもあらんとおもふものゝ日にかくるとなにそいとはのあ

嘉安元年三月廿日会講せられし時行意

ものを

前内大臣 実

ながしとおもひさだめぬるものとしるしるなるまるらん

惡の今世中よ

源頼朝卿

伊勢の国まつりをまもるこのいせ殿まもる

文保三年百首今年わかなる

民部卿為藤

月をいとなつかしうもてあそぶなのしるべ雲なき

法二位業子

鶴ぬ

うれいをはらはやもろこしかなるこん

大江為時

いかるるまゝうれいをはらはやもろこしかなるこん

法中納言為

源頼義朝臣

はるかにひるるもはるかやまるれしものたのもしかるこん

平英時

まちとしたやまるれ今はまれなるの夜

法二位長卿

はのこゑもあはれかはるまれなるまる

順徳院御製

今世秋の時をまつるまをせわ人のまるれば夜

法一位寛子

いたにそんさいそのその野ちかき所ふる所官の村
近文百そ寺のめされたりついそ宗雄を
後光厳院御製
ちふの雄のあるまひ名ちかくちかもみし所や秋もん
雅大納言為通
吹くられんつらと風ふかり野をとふ海ちかの糸
ちりしらす
源氏物
ゆるしたりそ仏ちかさ仏をとれくちかさ言もつ
雅家卿
源めるまちーうみ海ちかよりの人の野ちかへ

雅大納言為通人を育ちみ仏
日仏恵を
秋部成元
ちるまて野ちかれ所ふるかねさの心ちかち
宗仲法師
仏の野ちか中ちかたのちかなれの
津守国友
ちりねの野ちをいそわ海とれぬ言ひ白
暁阿法師
吹ちされそその雄を仏わちかの為のたひたひ思へん
前原伯顕朝臣

侍人のこゝ衆の初ゝ[illegible]

津守國貴

うゝそこねうさこゝろ[illegible]

前大納言信定

いつもゝ[illegible]

大炊御門右大臣

ゝゝゝゝ[illegible]

男の人の[illegible]

[illegible]

藤命婦

人をゝ[illegible]

深草[illegible]

法三位新改

ゝゝゝゝ[illegible]

顕方卿

源氏法

[illegible]

藤原家通

源の[illegible]

多[illegible]

[illegible]

初遍点の人を
をのつゝ定めいらるゝ海や点のひまなくなん
延文百首の事ありける時寄関点
前関白 基
文保三年百首会
前大納言為定
こひなれぬ人の心の中をとゝまるも恋ゆゑ
恋しらず
内大臣
定平ゝ心ひとりあはれ恋ゆゑ

正平二年百首会ありけるとき
大納言師賢
ゆきまくにやとて命も捨てゆく身世なりと
身を思ひとゝめ
能誉法師
なるゝ○と為よとれ恋とはいふとも
百首会中よおもふ心を
法印長舜
あはれとかいふめるゝ恋よ今は涙のくらもれ
恋しらず
延政門院製
義詮朝臣の初めとまひるよ恋ゝ今は

為名知行

たいおうの方は乃面新しく別紙その旨仰せつけらるべく

恵別恵とは

指中納言為重

うけたまはる為名知行

永徳元年六月十二日　三位入道

時猶別恵

尼大臣

秋とこあてはいとくの恵の事申入れ為重卿

百首歌なり　時別恵

前左府　為重卿

秋心なくさめとやわが恵ちよかうとのこと仕るべく

貞和二年百首歌　三位入道

等持院贈左大臣

為氏卿　為世卿　為重卿　為秋卿　為冬卿

源詮信

せめて雪をつくさは別源の八幡をさのこと

後野文前内大臣

ちりそめしもいまは余の海乃つくさはよそん余の海

永和四年八月十文和三首歌海せらるべ

つねは月前別恵　太上天皇

はるかなれどひまをやうやうさぐりて神のたまはの月

百首のうち時別歌

信中納言資教

春まちふるさのこかげの雪のみはなほたのむ神

おなじ

源彩元

くもりなくいとねんごろに別れをおしまずてくさるかの月

月前別恋の心を前大納言為氏

ちるをよみなれしの松ももとめがたみの有明の月

恋雲中

源基時朝臣

今宵ばかりやつるさ野をたんぬるの神は有明

建保二年内裏より百首奉りけるに

正二位知家

晴のまれいかなる人にあはんとてかかる神のうら波

恋中納言基家

ちぎりなくいかに人の別とやまさきの松ばらをくん

百首のうち時

藤賢門院

永の年はさてもこのうん夜この神は祈る人のうらと

従二位成豊

たえはてぬ寄るとはなきの別れをぞ紀別なるまし

子人百番合　　後鳥羽院御製

あはれとも思はぬ人の身のうへのためかなしかりける恋にぞ

おくれたる人をしたふ心の哀れ

思ひ乃女八言よあはせてあるに

哀れ　　元良親王

なにはえの入江の蘆をかりねにて

百首合　中　後朝恋

光孝天皇　前拾遺

恋ひ侘びぬ人の心の変らぬ

年経つる恋のつもりけり女にうらはして

なりそめの秋ぞ物思ふ

読人しらず

後朝恋

恋ひ思ひ君の心を忘れて物わすれうるかなれ

ひとり寝もなれぬ夜ぶすまの

為忠卿百首合　　後朝恋

恋ひ思ひ

二條院御製

ひさ

あるべきかぎりの恋ぞ物思ふ

中宮定家卿　　後朝

あはれ

元良親王れいやくと約束をいまはとて
ゆるすことをいまはとてあまの
たのしみまたかりてをりをしんまちをは
夕暮ハ秋しるしなくあつうすさまへきものと
板羽織のこと　源重房
なまそを所と云ハ海ちかくさしたる
ゆうされとものの別をそうくゝ命わりとも為ハ
百そ言ハ時　侍従乃敷

言ハ秋ハ月の光そ云ハ秋ハ月の別
文保百そ言ハ　法中定為
別ハ月ハ月のおくれ光ハ月ハ
人ハ別ハ

新後拾遺和歌集巻第十四

恋歌四

洞院摂政家百首歌

西園寺入道前太政大臣

人のうらみをかこちそめしを

紀ゆきの

逢ふ事のかたみの袖のなかれ川
せきもとめぬ涙なりけり

元亨三年三月義政摂政家三首歌

講せられし時

後人

思ひかねいのちをかけし恋ゆゑに
なほ人目をもつつむ袖かな

恋歌五

前大納言定

恋しさの数をかぎりの命にて
あはでやすぎぬ月日のつもり

貞和二年百首歌

後伏見院御歌

あはでのみ恋ふる命とつもりぬる
月日のすぎぬ袖のなかれに

紀ゆきの

人のうらみをかこちそめしを
なほ人目をもつつむ袖かな

寄帆恋

津守国助

秋の月浦なれぬれば

題しらす　よみ人しらす
ちかさにむかふその中をれやし浦嶋の玉櫛笥を
百首哥めされし時後京
太上天皇
こし浦よりをちかへりかはにまてたつぬ中のあや
まつはひさしくこゝらの嶋のあらさ
らぬのまをつらぬてしのふの行さ浪とよみを
ちやとふる紅とこましきめつよかへりて
よみ人しらす
すてらぬちきねしつれあやめ草抜ぬ君か袖なれ
此は後女乃あき世のなり
中納言朝忠
こしを性乃一もつていま八世中つきてまで満けれ
とのいまも経をさかせて千首哥つくりけり
つけり時意趣よろしく候ふ世なれり
太上天皇
敷ある渚菁を抜き今八の露を袖にかけて
忘れやしれらよはつる人のりしを
読人しらす
嵐吹く外山のおくそれとはこのえ添へてめん

前大納言公任

遠をたゝの嶺のくさかくれいつまでのこる
欲しら雪　法二位歳子

今こんと待しるみまやゝのうちのあれ山
津守國助

あしのやの末の行末をつゝみかねてやこの人のわ流
百首寄時紅葉　崇賢門院

紅葉ハたゝ山ちるたのつゝみ新み中ゝ色そ黒つ
恋の心　定顕法師

まそ[illegible]村雨ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ん
道不會恋　太宰大弐重家

[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
欲しら雪　大江宗秀

[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
百首寄月恋　冬嗣院冊波

[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
欲しらそ　稽人納言家実

[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

関白殿と申す事を

源頼之朝臣

かりそめの人の言葉やはかなくもうちすさんん

百そ言の中に時過ぬる哉

坊城為敷

関白のうちわたす程は今に一つの中の道

前大納言為家

故郷の紙

今宵やうらの池のみなを縄ちりまとはる人を

題しらず　秀風法師

おもふ方なしとはなれもとる人を源氏物語

藤原行能

今はやよそのよもつ乃ちあもの流れの末の浪に

三宮頼秀

面影をうつしとまるやうれしかりける人の形見なりけれ

寛治百首の時寄月恋

公猶隆親

おもかはりせぬ月の影にもなれぬる人の形見

藤原長秀

おなじ心を

かりそめのとまりとれば秋の夜の月ばかりぞ

寄水恋と云ふを　平貞秀

さもこそいはさはの末のあやそ濡しえん中河のみ
貞和二年百首歌の
前中納言為忠
ゆふそんうさ中河の乃波させはしをそれ落る袖
紅しらす
詠人しらす
中門のあさ紅なる花末はくれはもれ出たるかな
夜叉前内大臣
ひいらやあ波のうつと見まれて年暮ぬ
権中納言為重卿百首歌
小倉不逢恋
津守国量
拾中いかをとうら掛とはかりてをつ
紅しらす
宗祐法師
うらふのこなるみ乃浦に鳥津波高師の
詠人しらす
人めりる山さと波水量ふるあうら高まる
参議雅経
みくさのこ乃ふる松井のこ乃ふるまつ人の新とふる
権中納言為重
乃ん
乃ひ乃ゝ乃中の水乃まこれりてをしの新ふる
前大納言家明

はらひかくれ秋霧の面影も見えぬ野中にかゝれる　うきさ

前大納言為家

くみ捨し山井の清水宿よ夫撥くの後乃影をあし

延文百首歌に寄枕恋

宝篋院贈左大臣

我か身の枕にかゝるなさけこそはいふの涙なるらん

おもひくたけゝる百そこのに寄衣恋

入道二品親王尊道

涙の海に流れ衣打ぬるやまよなみしつかされき　つく

寄虫恋をよめる　左兵衛督基氏

かゝるらん人の涙は浅茅生に移りまさりしの露とまされ

題しらす　宗覚法師

白菊のうつろひそめて露はゆく人の心は見えしおきさ　移りは

大納言通具

さても猶えやはとゝきの下葉に露のおきさらん

延文百首歌に寄風恋

宝篋院贈左大臣

吹風に嵐となりての浮雲のいとゝ涙をさそふらん

題しらす　安嘉門院高倉

玉の緒の絶てかゝる人の今は恋しき

貞和二年百首のなりたるか

坂器前宮内卿

をさなき人のふみをもてあそぶ尺の面影もかなしき春

永徳元年六月十二日内裏にて三十首の

講せられしに遠紛恋といへる

大宰帥仲実

つれなくさうそくせぬ人をつれなくさかりの恋なれ

會不逢恋

祝紛紛親

ひとりもこひのなれぬ面影よおなじ世つくさかりの恋

宿律師実義

面影乃拾遺のこひもかひなきみ秋の夢に恋をしる

文保百首の中

中文左家母

ものつくこひのなれぬ世にかなしかりける

恋乃部

今宵のこひなれぬ月日をうの中を行とてん

恋後恋を

坂二条院御製

をとこなる人のこひしの思ふまゝ絶やうく

紛しとて

今宵の院を清

おなじ世に行とてんの面影をわすれ別を

源氏紛部

めぐりあひて人のかたるも涙ぐましく歌ども

ふるさとの涙にそへて袖の月ぐもりもなくみるわびぬ

伴周清

百首会すゝ時遇不逢恋

前関白左大臣

とゝまりあひしその夜面影もつくさぬみしの月てなれば

恋しらす

源親房

忘れぬゝみしの夜の面影もつくさぬみしの月てなれば

源親忠朝臣

あはれとやそれ別れしの夜の面影もつくさぬみしの月

後二條院御製

あはれ百首会すゝ

四二位隆教

あさ人のくるみかたの夜の月

秋ぬしもあはれみしの家の月

西園寺入道前太政大臣

待ぬせしくるしきに夕暮に面影のうつる月

三十首会講せられける時寄月恋

左衛門督資康

面影のうつるまくらに残るなる涙もとゝいとゝ

題しらす　清原元輔

憂しとも誰にかたらんます鏡見るかも人の涙なかれは

前大納言為家

人はいさ鏡にうつる影をよそにうつらんかたはわかんやはなき

延文百首奉りし寄鏡恋

按察大納言

いつはりの鏡に見ゆる影をさへ人めつゝむ涙にあはれなるらん

題しらす　よみ人しらす

月日のみうつりて流れますみ鏡見る面影は老まさりつゝ

寛治百首の歌なりける附

前大納言為氏

曇りかかる何面影の残らん清しき心よりうつれるに

新後拾遺和歌集巻第十五

憲舟五

紫しらず　　素性法師

忘れんの時思へとそ中絶のむすこをを神もうけ引

箱根光俊朝臣

ますらをいまをつてまつ遠方人のつきかけ

宮内卿

宮ものあるあさ男のをこをてくるをひて

きしをんハいく世ひもをれハあるを

馬内侍

忘れハ紙詠の裏ハ詠をて清水寺ハ成ぬをを

男ハ忘れくまなかりあるを安ハかをりてをあるを

源人忠

今ハをを人を忘をを心をを君ををひて忘所なれ

赤染衛門

忘ハ今の中ハ　　太上天皇

ふををわかるををの来をれハ行をををてををひやをん

為兼卿

あを元面前言の中をけるを忘憲

前林門院

ををををれハあをををををの為を物をを

紫しらず　　源朝臣物名

をを物を人ハををを面影を忘をを方をを人

寄書恋　摂政太政大臣

これまてとかきらぬ見えし玉章もみるもかひなきなみたなりけり

嘉元百首歌に忍恋　法印定為

つれなさを人にしられぬ物思ひあれはそれともおもひしらなむ

百首歌めされしついてにおなし心をよませ給ひける　太上天皇

ひとりのみ今はのこゝろ待ちわひぬ絶えぬ思ひも恋しきに

契りのひとつ男代えしらぬ世てこそはしのひしらけはいはむかたなき

読人しらす

こゝろをのみつくしてくれて中々に今日の夕のやうにしかへ

百首歌奉りける時忍恋　源義将朝臣

こゝろにもあらてしのふる中をたに思ひ出てなきなき涙なるらむ　左兵衛督資康

みしまえのなかれ芦の葉まよひつゝかはる人のこゝろうかるらむ

延文二年百首歌奉りし時寄鵜恋

入道二品親王覚誉

こはれぬる人のためなるさまなれはいつまてしのふるものゆゑにゆふ

宰相殿

伏見院御製

[illegible]

前中納言通房

[illegible]

源頼資

[illegible]

平貞盛

[illegible]

弘安元年百首奇ふ

法勝寺[illegible]

[illegible]

[illegible]

権大納言教嗣

[illegible]

紀幼成景

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

参議師宣

[illegible]

示空上人

云の上に往来し路は八重霞立らん山の端の花にさきまつ
兵部卿長綱
あまのすむ里は煙の立のほるらんの浦風に吹（あまの住ひイ）
続拾遺　頼阿法師
海人のすむ里のしるへは波をたにしらせつつ人の行衛知らん
新千載　紀俊長
浪たつのあまの藻塩焼衣うらみまし袖はぬれなん袖にあまりて
貞和百首　前中納言為明
根のしたに深き難波のうらつたひあまやあまの釣舟
弘安百首　前大納言為氏

あま衣たえず浦風やはらけてわか袖ならん
続しら浪
あまをふねかたふくそこは根つる人のつきのとまりなる
藤原秀長
はまかせうみるめひろへまりけれ月はかれてつきはてゝ
権中納言為重
あまの釣のうきにはかれまくもしたはなとはあはひやらん
文永百首合に　大蔵卿有家
浪まくらかせをいとはてとりまてしはれは今はとそ
百首歌よませ給ひし時　頼恵

前陸奥守藤原
[illegible]
陸奥守中ま
[illegible]
陸奥守国久
貞和二年百首哥
入道贈一品親王家
[illegible]
前元百首哥
民部卿為
[illegible]

遠江守中ま
[illegible]
貞和二年百首哥めされけるつでに
[illegible]
亭主院御製
[illegible]
花園院御製
一筋によひこそぬるやそしまの松もなるてさ
百首哥時松恋
前大納言実誠
[illegible]
[illegible]
如法尼実院入道前太政大臣
[illegible]

人をうみんとおもふ事を世にはなれ
ぬる
俊恵法師歌
つくしをのみ山とりの乃
なれはなれぬる事
新拾遺和歌集巻十七
雑歌上
新しらせ　後鳥羽院御製
ゆふ河の雲やへうちなびきてはるかに見
百首歌のうちにつゆそふ水懐
太上天皇
家もりのうゑしをれたる秋はぎ
ちらす
園融院御製
夫人なりけるものとおもふらんなる
大名対をみるりて西山にいくかの時

心とは西の山ぎはよりあとをうめかりなきへき門はやま
新しうす　浜三位為家
春かすみうすくなびくのそらいろは梅の山ぢのもえぬるかな
いくかぜんあるべき私の秋の門をうつ光のそらにかすかに
かきつばたなみぬる水にねはるかなれば梅の花の山
いまもそなるれば山はなるべきなれば代をのこるべし　津守国夏
浦波のうらうらとのどかいかなる山峯まで梅の花の咲
代々山ぶしの師匠とかくこそかなるかぶらの宮路の
延文百首の内の時　宋雅
朝寒よ春の波よりけりあはれ沖よりなびきそめつる
永仁六年十月亀山院住吉社御幸時之詠
山をとりあつ　津守国量
なびくこの花のこの山のこの山のこの山のこの山
浦波のうらうらとのどかいかなる山峯まで梅の花の咲
代々山ぶしの師匠とかくこそかなるかぶらの宮路の
延文百首の内の時　宋雅
朝寒よ春の波よりけりあはれ沖よりなびきそめつる
永仁六年十月亀山院住吉社御幸時之詠

眺望といふ事をつかうまつりける　津守国冬

朝夕に見遠ハあれと遠近の浦よりちかき淡路島山

宝治百首に海眺望　冷泉前太政大臣

わたの原八重の塩路を見渡せハそらもひとつにつゝく白波

百首歌の中に　太上天皇

夕塩のみちくる遠く見渡せハ空にきえゆくあまのうき縄

百首歌奉りし時　前太臣

わかの浦の松よりさしせぬ風の音にあまりてなく千鳥なるらし

権中納言為重

鳴浦波よする汀はるかにも浦にたつかきの松風そ吹

眺望といふ事を　為冬朝臣

塩風のおくりてくる浜津波打せるまゝに見えぬはまなみさ

宝治百首に磯巌を　従三位為継

ありそにくたくる波のいくたひかうけても又岩ほかくらん

題しらす　源義春

塩みちハいれもみえぬみをつくし松そ浦のしるしなりけれ

貞和二年百首歌に

海ちさそ月はやさくもさ澤稙のあやうきをといふ歌
　　新しら浪　　傳正定伊

若ちさ岩ねのもと稙をてはるひもるに世を海ル

　　稙を村

ちさ人八十綱の稙を門つ氣るもさ世をさ打や源らん

　　讀人しらす

ちけりよ人米の光稙そを世を海りに川へき秋方るね

　　新元百首　　津守國冬

海ちさせハてもひ人さ澤田ひまに的の徒稙るに世をらん

　　新古今　　源頼之朝臣

色坂の夕つけ方やいくらんも関ちもひのあとさを

　　延文百首　　ちの世ん鶴

一ちふちのきねとさけハ里ちにやて秋をちの野小

　　おなし　　西園寺前内大臣女

稙をあふもはちを世ちる晴をにあ海ちやはらん

　　延文百首　　權大納言時光

今も秋つちくいをくあるを秋をてやちの弱るをらん

　　等持院贈左大臣

[illegible]

[illegible]

[illegible]

述懷

前大納言為定

住山あくよはのそらにあらそふ今一段うきはしるき

平政村朝臣

のりをしへ我心のほりあ住山にいたりてのちのたそゆき

弘安百首うたなかの時

前大納言為氏

松山の谷の埋木年ふれとあらはしらぬ人もなし

平常顕

打はらふ花やはしよ埋木はあれはかなれ

前參議敦有

うもれ井のまもるまもれてもの波の下ふかく

為道朝臣

年ふかき松のうもれ木下ふかくあれて

婚子内親王

うもれ木はうもれて世をふかさとも水なもいかなる

きん

身はうもれ木のもれてくて

信實朝臣

神あそ人もあるとかまかみのそにかきれ

あるし

紙ぶすまとも

一条院親王寛忠

ゆふ市はすかきそくはれや年をこあり松のうの

述懐の中に　源義将朝臣

人をみの数にもの入るわかの浦の月にあつ
[illegible]　読人しらず

みくまのゝ浦のゝ月をたにもわかの浦の月をたにもすまし
とゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

[illegible]

世[illegible]山吉野[illegible]心の[illegible]

法[illegible]

のれさて出[illegible]宿[illegible]人[illegible]れ山の奥[illegible]

弘長元年百首[illegible]時山家

常盤井入道前太政大

[illegible]れて[illegible]山の[illegible]人[illegible]れ[illegible]

[illegible]

法眼[illegible]

[illegible]れ[illegible]山の[illegible]

[illegible]世の[illegible]人[illegible]

[illegible]

元可法師

[illegible]人[illegible]

[illegible]

結願上人

[illegible]人[illegible]

[illegible]

正二位通[illegible]

[illegible]山の[illegible]

山家[illegible]

[illegible]

[illegible]

百首哥奉時山家

源義將朝臣

さびしさはそれとも見ぬ山里と同じ人やはすまるらん

紀ノ師

とのつくりみちとくはしき人もなしいかにせんとか

藤原成景

梅がゝのうちにかをるとしの内の春をしらせ

藤原長信

ちりぬるのちやゝ山里の風もなをさきほこる

後人未詳

がをそとうらみしかとも山里の春の梅をさきのこる

推家貞後朝臣

いかくもとをしをしの方にうつる山陰もまつや梅まて

権中納言資教

をしはかるれまて時ハ山里ふもむかしの人の形やそ

源頼之朝臣

ちりそ又ほかの山里も春をまつ梅の花風

権大僧都經賢

さびしさはいかにとはしの山里ハいとゝ人のをもまさらん

祝部成裕

よ[illegible]ゆう[illegible]ゆやうもわかぬ山里ハさびてや人の行らん

源頼康

とゝれわをしと[illegible]山里ハまさしきなれぬ[illegible]

前大僧正慈鎮

そむくにうき世をすてゝ行ゆく入てもこのゝ[illegible]

菊原康行

通まいりのやをうん山里もかよそむくうき世なりけ[illegible]

蓮道法師

[illegible]世をわ[illegible]ゆくそもかを[illegible]て[illegible]山の奥

源頼則

[illegible]

前大僧正行尊

[illegible]

菊原[illegible]

[illegible]

菊原行[illegible]

[illegible]里ハ行のゝもひの末[illegible]

前大僧正慈鎮

[illegible]

[illegible]

[illegible]

弘安百首哥

[illegible]　　[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

前大納言実教

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

宗慶禅師

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

平重基

かくとだにいはんかたもなきものを思ひそめしは命なりけり

法人しらす

[illegible]

源友約

[illegible]

[illegible]

[illegible]

新後拾遺和歌集卷第十七

雜躰下

世とのがれて横川に住侍りける時

菅原高光

見渡せば煙たちそふ富士のねの雪の下

詠人しらず

長谷の神ぞうき世とのがれぬる色にうつるも

遠樓月

頼阿法師

年ふれど一ちかへりとのがれぬる神

中務卿家歌

ぬるとても法とのがれぬ世をうきの心なりけり

貞和二年百首歌

後嵯峨院御製

秋にあはぬ人のなげきを月やもしん

正中二年百首歌奉りしときに

後伏見院御製

ものうき人の身をなげきあはぬ秋の夜の月

御物語とて人のうき世なげきを聞いてよ

みな侍りし

前大僧正道基

わびとうしものうきなげきをかこちてもの上

月

法云法師理

永和二年八月十又五日今夜時

拾改太改

源光行

陽明殿

建保三年四月十又五日夜

大納言通具

法中延命

貞和四年

大納言公藤

夢窓國師

源頼貞

住まれぬ秋方さらへ秋の月いづくの子野山なりとも

同月廿日　中間入道前左近将監

山深み月も今宵ばかりなれそうむん法の心をしる

入道二条殿

世の中を思ひ立ちぬる出家にはいかなる山も住まぬ

前中納言定家

ひとりのみ入る山路の月なれば思ひ出でぬ人ぞ恋しき

津守国久

ひとりのみ月見るなる心のひまなる道と

平貞基

いとゝ人き世のうきかはもうらやましかりけれ

中務法師

月ぞあるものそれ世帯にそなへて世をいとふ

後京極殿御量

捨てゝ入る物ぞ世のとゝのふいとうらん

文保百首

前大納言実教

ひとりもとゝの来れむわれまたいとうらん

[illegible]

[illegible]

[illegible]

法印昌尊

なりてあるさいはらの分のあまり米
はまり
はるまつ世をうけたまはる分の行事を行わ新
法中宗信
一ときはかりもあるそのうへ世をうけたまはる
前右衛門尉宗助
きわとなくきめうの行事も新しくさたまれ分
山名
今はものしらそれ世をうけたまはる
三宮為連
諸人一らに
おもうにみやこけうん通てもかのうの時ふる世
法眼聖覚
いうあれと我わまりの未をしらさるあんかうん
弘安元年百首会のなりの時
前大納言為世
とのかうの法のあるあんかうの
新しうす
法中有雅
はまりのうの時ふる新のあるあまり
妙有法師
うしてそれ世をうけたのあまり新しい行事の分

[illegible]　昭覚法師

いとつくしかりけるをのこ世中のやうにはのうくるあ[illegible]

[illegible]　宗覚法師

[illegible]世のうきにはいかにかはいかなるこ[illegible]

[illegible]　義宗國師

[illegible]

[illegible]　源氏直

[illegible]

[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]

[illegible]　

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

貞和百首のめされけるつでに

光厳院御製

[illegible]

道大法師病よりのち泰山府君

まつりさせたりけるを[illegible]

[illegible]

世のあふぎも[illegible]

世とのれかりはりけるこの[illegible]

[illegible]

[illegible]

世をとりもちき果てをとりもちきんとしたりし

[illegible]

[illegible]

[illegible]

源高秀

法橋明長

橘重吉

源光正

三善資連

僧正永源

僧都少僧都運圓

光叡院御製

前僧正尊玄

法眼宗源

前大僧正慶惠

[illegible]の書の紙あり[illegible]

陽子内親王家筆れら

[illegible]

弘安百首奇[illegible]　前大納言為氏

[illegible]

六条修理大夫[illegible]

前大納言忠良

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]　陽子内親王

今八世王部ハ[illegible]

[illegible]女の方[illegible]

[illegible]　菅原仲文

[illegible]

[illegible]人[illegible]

[illegible]神[illegible]

祖父国助ハ[illegible]

[illegible]　津守国夏

[illegible]

[illegible]安而首[illegible]時　前大納言為氏

[illegible]

世[illegible]

[illegible]

[illegible]　源順

世[illegible]

[illegible]　花園左大臣家小大進

[illegible]

[illegible]　権大納言長家

[illegible]

源仲綱

[illegible]

藤原門院少将

[illegible]

[illegible]

[illegible]

江戸実甚

ふるさとのさくら地い面影もかはらぬ別の名所かな

無常の句

花阿上人

はかなさのあるものとかはれやうのものとかはれとて

二月廿日釈迦守護

ちりやいろ〻の人の世をつゝみ捨てさくん

如空上人

命とて打ぬきたれば師の家に風ふかぬもあり世界

法を求聞日為まうして浄めちよをうきさ

はかなき時常に日師山寺のかしはかなるの

を思ひ出て　高階宗成朝臣

来掃山君のゆきをいとなみ打ちはらはるしさ

なき人のこゝのあるをみく

前大納言忠良

約束なれむのをもかなみて行そのうしろ影なり

ひとしらを　法門院御製

去の花秋のあるをけふふれ世をとまり

色うまれなり

新後拾遺和歌集巻第十八

釋教哥

花厳経の高山頻説の心を

　　皇太后宮大夫俊成

釈日そなたのそらの白くもぬしの人にたとへ侍る

おなじ仏をとめる　中務卿宮親王

いつくまもまことの道に明りなれたる君にあらん

方便品唯有一乗法二亦無三乗を

　　入道贈一品親王家

まことの花をそなへ二なくまことの法をあらはす

　　源宣旨人

我ひとり仏をいのりあはれまんのつまにあはさるき

法華経序品　知今仏欲説法華経

　　摂津僧院御製

法の花今もさかりにあはれぬるみ人やどにかん

　　前法師

　　家隆法師

深き月の光にうれて物の源をさとりたる

　　和泉式部

和泉式部の月のいかなるかくまもる

　　成尋法師母

山のふ出入月もめでて心乃うちふかきとこそきけ

寛塔ふ　法眼源承

苔の庵とむの砌よ寄うく実を見る月の影

新しらて　法人たちて

冷て高嶺の乃よ中時て面とかのの人を時の月

梵網経各国法健智力修善の心を

秋うて山の端を物ものうち月日の移て物き

化城喩品の心を　前大僧正頼仲

うれ乃ち秋分よいて無て思て見て見て

新しらす　法人たちて

月をとめ散一切衆生のこ仏性のやうを移や

唯識論を　津守国友

ものもうもやうもせおうくに移てうをいて高

新しらす　法人源法師

みか人の心乃月の時やうて来世の仏人の雲

心経の不増不減を

かくしかむ明さ中式夕月秋まさ明のうち明も

釋教のうて　夢窓国師

やすらかもうるさきわすれぬくみよ月よへてやわ

金剛経　後京極摂政藤原良経

孫くくいこの月をはりて鶴のみ山よ法をてらえん

観無量寿経の時益分を

信生法師

清水一世の浮世を法て青き方の月をうら

恵教西方を　示證上人

入月のかたをてらす月の西の方をしたまふ

華厳経のこころをよみ侍りける　相模師華厳

百日入堂乃ときは散山を動るよのかり

入道二品親王道

てらく侍りけり

わらむしろ敷といはせるうしの下の苦しうよ

彰しらす　前大僧正道玄

俗よみとりてうん我山のはのはるれのかきうら

法蓮法師

濁りあるかも月いやうとうと思人ちやうてもをしみる

入道

かう世の人乃をとみまう拾ひたるひそ拾むうそ

人をみてはのられをてらしてもものをいはすらん

観経釋文釋迦氏方發遣除法即授回

来迎　　前大納言為家

船よりあがるむかしの海ちかき浦の春は昔のなこりもん

嗚呼罪品今以付嘱法等乃至恒沙

みなもとのもとをたつねてくらしきて下京

前大納言為長

浦出ふる人の面影

源承和

年をへしとはのみちのくらしきて下京

十戒ふりをすてしあり

前法師

さしの世むなしきはかりなりしかしられ

嗚呼罪品今一切衆生皆得聞知

みふの人の記世乃美まもむとしはけるくしはけ晩の後

前大納言為定十二月佛ノ一日修ス

行ふ世者ふる人のうらを

行中納言為重

[illegible]

[illegible]

[illegible]

拾遺愚草集巻第十九

神祇哥

孔長百首哥たてまつりける時神祇

後九条前右大臣

世のうきをよそにうつしの神垣の思いなしたる
身和百首哥　寄社流贈左大臣

ちはいのうへにもれ男山ふかくもちかふ
石清水社哥合　源家長朝臣

八幡山神やまもん鳴の社者てさらぬ方のさかえ
百首哥奉時　拾遺愚草改入

春日山さかの神のちかひてよ世もさしも歳の松かえ
新しら浪　中将延朝

はつこえ詠まむ山ふかき神の御ちかひ
後鳥羽院百首哥奉

一ちかひ世代をかけてかたみ形むかしの松の
建暦二年十二月和哥所百首哥

前中納言定家

御ちかひてちとあつまる方のとりよ祈ふ
文永二年二月二日　伊勢の所

山ちかきかの宇治の中よ

中務丞宗秀朝臣

信実朝臣

前大僧正光源

菅原為長

百首寄月恋時紙紙

[illegible]

[illegible]

[illegible]

文よ今発さく物の文ちらはてそ子世のさちりきん

紙しらす　　吹義備久

やしろし神代なりたとも孔をみてまつる月孔

和元百首今年のうち月

ちはやふるみてしの浦さえられて紅葉山わかの神

神祇乃今よ　　法眼玄全

幸波のやさ波なりしも紅を神代なりを花ふ欲

津守国冬

神酒の杯も孔をみてしらはめられて世を祈る孔

紙しらす　　法眼禅叢

神酒や一夜乃杯の外り縄手をかけて世を祈る孔

度會朝勝

孔橋ちりさよ文の乃ちさ波の杯ち君を祈ふ

津守国平

真清風濃雲を松よりて百ちる流の行末

百首今年の時神祇

俗中納言為重

河ちれしりの孔橋ちりの文ねる今位古も浦風ちて

津守国量

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

新後拾遺和歌集巻第二十

慶賀部

[illegible]

前大納言為氏

和田津海の玉藻乃敷ものあまりさ君ら手枕

[illegible]

[illegible]

[illegible]

けう時ゝまゝ世ゝ
後醍醐院御製
時ゝとゝハ花も花ゝの久ゝ行末ハ百代乃春
永和元年三月廿六日松樹寿久ゝ事
を講せられし時ゝ
太上天皇
十ゝ万の花を分ても松ゝ久ゝ千代の春
しらす
京極前内大臣
君の代乃いとゝ久ゝく成ぬ遠い年世の松も栄
文保百首御製
ゝ万ゝ時

法印定為
きゝふゝりゝよゝゝて秋君の天津日つきゝ事もゝ
しらす
特大納言具通
男山今と百代のゝゝあゝてさゝゝゝ君とゝ南のゝ
二條院御製
あゝ代ゝゝ人の心時ゝゝん物ゝ朝日のゝゝゝ
慶安二年二月六日三首御講ゝ時
御製
特大納言忠光
所ゝゝく代ゝゝゝて世ゝゝ月日ゝ君のゝゝ行
慶安四年九月十三夜池月添光ゝゝゝ

[illegible]時[illegible]なりて

前関白[illegible]

[illegible]年ともひおくて[illegible]月[illegible]の池の

新[illegible]の乃中より

前大納言為定

[illegible]て[illegible]

永徳元年六月十二日[illegible]前歌[illegible]せられ

[illegible]時[illegible]通[illegible]

左大臣

おさもれる代乃[illegible]

寛元元年大嘗会の[illegible]基方の女工[illegible]

[illegible]けるよ[illegible]の[illegible]日[illegible]

[illegible]

[illegible]

和元百首今年はじめて

後西園寺入道前太政大臣

はるばるとよりぬる方の宿の雲をとゝめて未はつるこゝろあり

雜の部の中に

後二條院御製

うゑの原の月にあそぶ君がこゝろ

春は院の六十賀に京極の息女なり

けふの扇風の奇

伊勢

はるかなる年をまちかねられぬべし千歳の人もきゝ

元久二年新古今竟宴の奇

後二條家淳

君をもかはらぬ玉藻もみぎはにはなれぬ

文永三年後古今竟宴の奇

浦風

左近中將奥氏

宴のあとのなごりとゝまりて

後宮の御琴をとりて

つたへもせず須の三神乃物語

永和元年大嘗會御禊前日

拜舞の右大將

儀同三司

君が代を祈るまことをつくしもの

十二月廿人をつくして

国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan